

## にがてなこと、こまっていることがあっても大丈夫 「特別支援教室」で自分らしく学べます

特別支援教室は、知的な遅れのない発達障害等の子どもたちのサポートを目的とし、  
子どもの状態に応じて、一人ひとりが抱える困り感などを改善・克服できるようにします。

### たとえば…こんなお子さんのための教室です

#### コミュニケーションがうまくとれない

- 興味や関心があることを一方的に話すことがある。
- 思ったことをそのまま口にしてしまったり、自分の意思を表現できなかつたりして、友達関係がぎくしゃくする。
- 人の気持ちを察したり、相手の立場に立って考えたりすることが難しい。

#### 不注意で気が散りやすい

- 授業やテストなどに集中できず、うっかりミスが多い。
- 整理整頓が苦手で、忘れ物が多い。
- 音や光、皮膚感覚に過敏に反応して集中できない。

#### 勉強に得意不得意があり、力を発揮しにくい

- 音読が苦手で、読み間違いが多く、読みながら理解することが難しい。
- 漢字やアルファベット等をなかなか覚えられない。
- 書くことに時間がかかる。
- 計算が苦手で、簡単な計算が解けなかつたり九九が覚えられなかつたりする。

#### 気持ちの切り替えが難しい

- 場の空気を読み、状況を判断して動けない。
- 好きなことに集中しすぎたりこだわりがあったりするため、気持ちの切り替えに時間がかかる。
- 急な予定変更や初めてのことに対応できず、気持ちが落ち着かなくなってしまう。

#### 衝動的に動いてしまう

- 待つことが苦手で、活動中に体が動いてしまう。
- 気になるものがあると、状況を考えずに行動してしまう。
- 手を出したり、大きな声で騒いだりしてしまう。

#### 運動や体の動きが器用にできない

- 指先を使って細かい作業をしたり、道具を操作したりすることが難しい。
- ドッジボールや大縄などの集団遊びの輪の中に入れない。
- 体育全般的に苦手で、体の動かし方がぎこちない。
- 筆圧のコントロールが難しかったり、マスに合わせて文字を書いたりすることが難しい。

### —指導内容の例—

場面に応じた行動の仕方  
気持ちの伝え方  
気持ちの整理の仕方  
自分も相手も  
大切にできる関わり方

自分の得意な力を  
生かした学習方法  
自分に合った学び方  
スモールステップでの  
苦手を克服する学習

自分の得手不得手や、  
自分のよさに気づき、  
自己理解を深めていく学習  
苦手なことに対する  
向き合い方を学ぶ学習

刺激の少ない個別の  
落ち着ける環境の中で、  
指導者との安心できる  
人間関係を構築することで、  
心の安定を図る

在籍学級での学習におおむね参加できていても、

学習能力のアンバランスさやコミュニケーションの問題から、集団での学習や活動につまずく子がいます。

在籍校での学習や生活に円滑に参加できるように、

コミュニケーションの力や社会性を育てていくのが「特別支援教室」です。

### 子どもたち、一人ひとりに寄り添う教室です

特別支援教室での授業は、週1回、1時間程度を基本としています。

一人ひとりのニーズに合わせて、指導内容や指導方法、時間などを、保護者や学校と相談しながら決定します。個別指導を通して、自信と意欲を育て、「自分っていいな」と感じられるようにします。

#### 一人ひとりに応じた

#### オーダーメイドの個別指導

一人ひとりの特性や課題に応じた指導をし、様々な教材を使って、学習する時間をつくります。個別の環境の中で、落ち着いてじっくり学習したり「わかった」「できた」「楽しい」と思える体験を積み重ねたりすることを通して、自信と意欲を育てていきます。また、興味・関心や得意なことから自分らしさを見付けたり、苦手なこととの向き合い方を学んだりしながら、自己理解を深めていきます。



#### みんなで子どもを支援します

##### ●在籍学級との連携

子どもの様子を伝える連絡帳(ファイル)は、保護者と在籍学級担任の三者で共有します。また、巡回指導教員が子どもの在籍する学級に様子を参観することもあります。他にも、特別支援教育コーディネーターや、スクールカウンセラーとも連絡を取り合いながら、連携を図ります。

##### ●保護者との連携

巡回指導教員と保護者との個人面談を年3回設けています。必要に応じて、在籍学級の面談に同席することもあります。



#### 特別支援教室の 学習環境

※写真は平井南小の  
学習室とプレイルーム

